

The Japan Academy of Midwifery Newsletter NO. 35 発行所 日本助産学会
〒102-0071

日本助産学会ニュースレター 東京都千代田区富士見 1-8-21
東京都助産婦会館内

電話・FAX 03-3221-0417

代表者 近藤潤子

第16回 日本助産学会学術集会へのご案内

The Japan Academy of Midwifery

第16回日本助産学会 学術集会会長 堀内 成子

今年も日本助産学会学術集会のご案内をさし上げる時期となりました。第16回の学術集会は、2002年3月14日(木)・15日(金)、東京で開催いたします。助産を取り巻く状況は厳しく、助産婦の数の減少という逆風の中で、その専門性をどのように守り発展させていくかが問われています。

生殖補助技術の発展や遺伝子解析は、治療を受ける女性と家族に、そしてケア提供者自身に、多大な恩恵と同時に多くの迷いをもたらしました。現代では子育ては難しいテーマと考えられ、また若者の性行動の開放化や電子的な日常生活は、いのちの尊厳を意図的に取り入れなければならないほどに、生命観を希薄化させています。

先端医療における科学技術重視の中でこそ、ぬくもりのある人間性あふれる助産ケアの存在が求められます。また病院などの施設におけるケアと地域の助産所におけるケアがつながりを持ちながら共存していくための方策を探りたいと思います。

メインテーマは、「先端医療と共存する人間性あふれる助産ケア」(The Coexistence Humanistic Midwifery & The Technology Model of Medicine within Hospital and Community)といたしました。

第1日目は、会長講演、招聘講演、特別講演、そしてシンポジウムを企画しました。少しずつ角度を変えながら、メインテーマの意

味を考えたいと思います。第2日目は、10グループのワークショップと一般演題の発表をつうじて自由な討論を交わしていただきたいと願います。

学会に参加なさる方へ、本学術集会の意図するところを理解していただきたく、次の4つの「参加者への期待」を書き記しました。

- ①先端医療における科学技術モデルの中で、人間性あふれる助産を実践するために必要なことを考える。
- ②研究的アプローチを通じて既存の知識や実践を見直す。
- ③実践の新たな試みを探り、より良質な実践へ向うヒントを共有する。
- ④仲間である隣人と豊かに対話し、変革の芽を自分自身の中に見つける。

学術集会の新たな企画として、従来とは異なり一般演題の発表を、その内容から「研究」と「実践」の2本立てとしました。「研究」発表は研究的アプローチを通じて新たな知見を見だし報告するものとし、「実践」発表は、意図的に変化を起した実践の試みを考察するものとします。よりよい助産に向けて新たなアイデアをシェアしたいと考えています。

また、コミュニケーション・ブースを設け、女性やお母さま方の活動に触れる企画をいたしました。会員・非会員、医療関係者以外の多くの皆様のご参加をお待ちしています。

会場は第1日目と第2日目では移動いたし

ます。第1日目は、東京都中央区立中央会館、第2日目は聖路加看護大学で行います。ご不便をおかけしますが、お許し下さい。場所は、おしゃれな銀座や下町もんじゃ通りの月島、そして、東京の新しい観光スポットである晴海トリトンスクエアにも近く、学会終了後はお楽しみいただけると思います。

学術集会のご案内は、6月下旬までに、皆様のお手元に届くことと思います。一般演題の申し込み方法などが前年度と異なりますので、おまちがえないようお願い致します。多くの皆様のご参加をこころよりお待ち申し上げます。 <5ページにつづく>

第15回助産学会総会報告

庶務担当理事 小田切 房子

第15回日本助産学会総会並びに学術集会が、2001年3月24日(土)・25日(日)の両日、金沢市民文化ホールにおいて675名の参加により盛会に開催された。総会は24日(土)、15時近藤理事長の挨拶により開会された。総会の概要を報告します。

1. 平成12年度会員について(平成13年1月末現在)

普通会員	1,127名
特別会員	13名
会誌継続購読	36機関
入会承認数	110名
退会者数	55名

2. 平成12年度収支決算

収入	15,484,487円
(繰越金、会費、雑収入ほか)	
支出	10,304,756円
(会議費、事業費、事務費ほか)	
繰越金	5,179,731円



3. 特別会計報告

学術集会基金	収入	3,150,000円	(第15回、16回学術集会会長に各2,000,000円貸し出し中)
	支出	2,000,000円	
	現在高	1,150,000円	
学術奨励基金	収入	17,940,000円	
	支出	1,600,000円	
	現在高	16,340,000円	
ICM 評議会出席費用積立金	収入	650,000円	
	支出	145,000円	
	現在高	505,000円	

*会計報告の詳細は助産学会誌に掲載されます。

4. 監査報告

2月15日に監査し、適切に処理されていると報告された。

5. 理事会報告

5回開催し、学会の運営・事業の推進、入会申込者の審査などについて審議した。

第17回日本助産学会学術集會会長として、加藤尚美沖縄県立看護大学教授を選出した。

6. 庶務報告

理事会、評議員会、総会の準備および運営の会務に当たった。

会費未納者への対応を強化すると共に、会費納入方法（自動引き落とし）について検討した。

会務の円滑化を計るために会員名簿管理について検討した。

電子メールおよびホームページ開設について検討した。

7. 委員会報告

1) 会則 担当：役員の任期および理事会開催回数の会則改正に向けて検討した。

2) 渉外 担当：組織強化について検討した。

第1回からの学術集會および総会に関する資料の収集を行った。

日本助産学会紹介英文パンフレットを国際委員会と共同で作成した。

3) 広報委員会：国際助産婦の日のポスターを500枚作成し、関係機関に発送した。

助産婦の活動内容をアピールした国際助産婦の日のリーフレットを5000枚作成し、関係機関に発送した。

ニュースレター第32号・33号・34号を発行した。

4) 編集委員会：学会誌第14巻1号・2号を発行した。投稿論文原著は12編で、内1編は査読進行中である。

投稿規定の検討および英文規定の作成（継続）

査読基準の作成（継続）

第12回日本助産学会ワークショップに話題提供及び本学会誌に

投稿 「日本助産学会誌掲載論文の動向と今後への期待」

5) 国際委員会：学会誌およびニュースレターにICM情報の提供と海外および国内からの国際関連事項に関する問い合わせへの対応を行った。

日本助産学会会則の英訳を行った。

6) 学術会議委員会：日本学術会議への対応を行った。

学術著作権協会への委託

会員の文部省科学研究受託状況の把握

7) 学術振興委員会：助産学会ワークショップの開催を行った。

テーマ「もっとうまく論文発表をするために知って得する講座」

平成12年度委託および学術奨励研究の募集と選考

応募総数25件、そのうち委託研究2件、学術奨励研究2件を採択

8) 業務・教育検討委員会：検討課題「母子ケアの評価システム」への取り組み中である。

「日本の助産婦が持つべき実践能力と責任範囲」の英訳資料を作成した。

上記報告事項は報告のとおり承認された。

7. 審議事項

1) 平成13年度事業計画について

- | | |
|------------------------|----------------------|
| (1) 助産実践・教育の強化 | (7) 国際助産婦の日に関する事業の実施 |
| (2) 助産学に関する研究の振興 | (8) 第16回学術集会開催 |
| (3) 学会誌・ニュースレターの発行 | (9) その他、理事長が必要と認める事業 |
| (4) 組織強化 | 評議員・理事・監事の選挙の実施について |
| (5) 日本学術会議関係活動 | 会費の自動引き落としについて |
| (6) 国際助産婦連盟および関連団体との交流 | |

2) 平成13年度予算

収入 15,484,731円 (会費、繰越金他)

支出 13,008,710円 (会議費、事業費、事務費、予備費他)

【会場からの発言と回答】

<委託研究について>

質問：募集要項は二度届き最初の案内には課題が提示されていなかったが、二度目には課題が提示されていた。課題に添った研究でなければならないのか。

回答：研究課題は大枠を示したもので、それに近いテーマであればよい。

質問：研究期間はいつまでか、12年度の報告書は7月までの提出でよいか。

回答：12年度は開始が遅かったため明確な返答をしていないので、近日中に連絡をする。

13年度については持ち帰って検討したい。

<会費自動引き落としについて>

質問：会費引き落としの経費は個人負担になるのか。

希望しない人はどうするのか。

回答：会費はいずれ全員自動引き落としとしたい。振り込み料は会員の負担とする。

14年度の1年間は移行期間として従来の振込み方法を併用する。

審議事項は上記の質疑の後採決し提案どおり決議された。

8. 次々期学術集會会長承認

第17回学術集會会長として、評議員会で選出された加藤尚美沖繩県立看護大学教授が近藤理事長より紹介された。

9. 次期学術集會会長挨拶

次期学術集會会長聖路加看護大学堀内成子教授より挨拶と2002年3月14日(木)・15日(金)に東京都中央区立中央會館と聖路加看護大学にて学術集會を開催することが紹介された。

————— 第15回日本助産学会評議員会開催報告 —————

2001年3月24日(土)金沢文化ホールにおいて、出席者27名委任状10名により開催された。総会提出事項の審議と第17回学術集會会長の選出が行われた。

第16回 日本助産学会学術集会のお知らせ

会 期

2002年3月14日(木)・15日(金)

会 場

東京都中央区立中央会館 (3月14日)

聖路加看護大学 (3月15日)

プログラム (第1日目 3月14日)

・ 会長講演 9:40～

「助産学を拓くために有効な陣痛 –それは研究的思考から始まる–」

演 者：堀内 成子 (聖路加看護大学)

司 会：加藤 尚美 (沖縄県立看護大学)

・ 特別講演 10:20～

「ことばで人を包むという仕事」

演 者：平川 和子 (東京フェミニストセラピィセンター)

司 会：三橋 恭子 (聖路加看護大学)

・ 日本助産学会 総会 11:20～

・ 招聘講演 13:00～

「出産のヒューマニゼーションが社会へもたらすもの
–文化人類学から見る出産の意味–」

演 者：Prof. R. Davis Floyd, PhD (テキサス大学)

司 会：近藤 潤子 (天使大学)

・ シンポジウム 14:30～

「いのち・からだ・こころ –愛の助産を社会に–」

生殖補助技術と女性 森 明 子 (聖路加看護大学)

NICUでのぬくもりのあるケア 長内 佐斗子 (日赤医療センター)

お産と育み 毛利 多恵子 (毛利助産所)

司会：赤山美智代 (日赤医療センター)

加納 尚美 (茨城県立医療大学)

・ 懇親会 17:00～

プログラム (第2日目 3月15日)

・ ワークショップ 9:30～ (詳細は7頁参照)

・ 一般演題発表 13:00～

発表内容の形式：「研究」および「実践」

発表方法の形式：「口演」および「ポスター」

従来の「研究」発表の地に「実践」発表を設けました。独創的な発想の実践を報告し、参加者と意見交換するものです。

・ コミュニケーション・ブース

女性やお母さま方によるブースを開きます。どのような活動をしているか覗いてください。

参加費

• 学術集会参加費

会員：8,000円 非会員：9,000円

(2月22日までに納入の方に限り集録を事前にご送付します。)

当日参加費：12,000円(会員・非会員ともに)

学生：4,000円(大学院生は除く)

医療関係者以外：1日券2,000円(集録代は別途)

懇親会参加費：5,000円(ピュッフエスタイル：定員150人)

• 振込先

郵便振替 口座番号：0110-9-661007

加入者名：第16回日本助産学会学術集会

演題の申し込み・抄録投稿

発表を希望される方は、下記要領に従って、2001年10月1日(必着)までに演題申し込みと抄録の提出を一括して事務局にお申し込みください(前年度とは方法が異なります)。

• 投稿者の資格：共同研究者を含めすべて会員に限ります。

• 必要書類

1. 演題申し込み関連書類(ハガキ：イ・ロ・ハ)

2. 演題抄録(オリジナル1部、コピー1部、所属名発表者名を伏せた演題名のための抄録コピー3部、計5部)

• 一般演題

1. 発表内容の形式は「研究」と「実践」、発表方法の形式に「口演」と「ポスター」があります。申し込みの際にいずれかお選びください。

2. 投稿要領：本文の記載は、下記の章を原則的には立ててください。

「研究」の場合は、I緒言(目的を含む)、II方法、III結果、IV考察、V結論、VI文献とします。「実践」の場合は、I緒言(目的を含む)II実践の内容、III考察、とします。

3. 発表方法

• 口演の発表時間は1題につき発表10分、質疑5分の予定です。

• ポスターセッションは、ポスターを提示しての自由討議形式です。発表者の方は発表時間に会場においてください。ポスターの提示面は、幅90cm×長さ180cmを予定しています。

保育ご希望の方へ

小さいお子さん(未就学児のみ)を有料でお預かりします。定員がありますので、事前に(2月末日まで)連絡先を明記のうえ、FAXで事務局までご連絡ください。

• 連絡先

〒104-0044 東京都中央区明石町10-1

聖路加看護大学内

第16回日本助産学会学術集会事務局

TEL&FAX 03-5550-2372

<http://square.umin.ac.jp/jam16/>

<5ページよりつづく>

ワークショップの詳細 ——— 第16回日本助産学会学術集会 2002年3月15日

テーマ	ファシリテーター	話題提供者
助産婦と国際支援	李 節子 (東京女子医科大学)	三砂 ちづる (国立公衆衛生院) 永瀬 つや子 (茨城県立医療大学)
双子の子育て支援	塩野 悦子 (宮城大学)	藤本 恋子 (藤本助産所) 久保田奈々子 (ツインキッズクラブ)
タッチケア (実技:30人限定)	井村 真澄 (タッチケア研究会)	菅田 倫子 (ヒリングスペース・アケリエル) 影山 初子 (愛育病院)
周産期における遺伝看護 (事例検討)	有森 直子 (日本遺伝看護研究会)	中込 さと子 (山梨県立看護大学) 木下 千鶴 (杏林大学病院 NICU)
性暴力と助産婦の役割	片岡 弥恵子 (クローバーの会)	小竹 久美子 (まつしま産科婦人科病院) 清水 亮 (清水マクティ相談所)
開業の醍醐味	多賀 佳子 (多賀助産所)	瀬井 房子 (ベビーヘルシー美奮) 鴨原 操 (みづき助産所)
助産研究に活用する生理的 反応	江藤 宏美 (助産婦「石村」)	松原 まなみ (岡山県立大学) 近藤 好枝 (慶応義塾大学)
助産婦による「いのちの 誕生」教育	金子 美紀 (日本助産婦会東京都支部)	杉山 道子 (杉山助産院) 左古 かず子 (あゆみ助産院)
現場から助産教育に希望する	中根 直子 (日赤医療センター)	江角 二三子 (深谷日赤病院) 福井 トシ子 (杏林大学病院)
グループ運営におけるファ シリテーターの役割	島田 啓子 (金沢大学)	戸田 律子 (日本出産教育協会) 斎藤 京子 (聖路加国際病院)

「国際助産婦の日」



第10回「国際助産婦の日」の記念行事を金沢市の堅町商店街ディースボックスにて4月21日行いました。テーマは「あなたのそばに助産婦がいます。」で「思春期・周産期・更年期なんでも相談コーナー」「妊婦体験コーナー」「人形を用いての育児体験コーナー」「胎児・新生児の成長発達過程を見るコーナー」を設け、一般参加者は83名でした。

相談コーナーでは「避妊方法や性行為感染症について、生理痛について、離乳食について」等の相談があり、体験コーナーでは妊婦体験スーツを着用した妊婦さんのご主人が「貴重な体験ができ、妻の大変さがわかりました」と応えていました。また若者の男女が「母親になるには大変ですね。楽しかったです。」と話してくれました。

アンケートには、「助産婦の仕事を知ることができました。このような催しで助産婦の仕事を知ってもらうのは良いことですね」「理想の妊娠・出産・育児が出来るように力をかけて下さい」「もっと思春期の人と関わる機会を持って欲しい」等の要望がありました。私たちの今後の仕事の励みにもなり有意義な催しとなりました。

(石川県からご報告いただきました)

会員各位

平成13年6月1日

日本助産学会選挙管理委員会

日本助産学会評議員および理事・監事選挙告示

下記のとおり評議員および理事・監事の選挙を実施致します。

投票用紙は、各選挙人の連絡先に事務局から直接お送りしますので、送付される所定の用紙を使って指定の期日までに投票して下さい。

I 評議員選挙

1. 選挙人および被選挙人

- (1) 平成13年6月30日までに会費納入者名簿の普通会員を選挙人とします。
- (2) 選挙人は、入会年度を含めて3年以上経過した普通会員とします。

2. 選挙の実施および方法

- (1) 選挙は地区別に行います。(選挙・被選挙権を有する普通会員は、本人の意思に基づき、職場又は居住地のいずれかを、選挙・被選挙希望地区として登録することができます。)
- (2) 地区別は、北海道、東北、関東(東京を除く)・甲信越、東京、東海・北陸、近畿、中国・四国、九州・沖縄の8地区単位で選出します。
- (3) 投票締切 平成13年10月26日(当日消印有効)
- (4) 投稿用紙の送付場所
〒102-0071 東京都千代田区富士見1-8-21 東京都助産婦会館 3階
日本助産学会選挙管理委員会
- (5) 開 票 平成13年11月3日 午前10時より
- (6) 開票場所 (4)と同じ
- (7) 投 票 (イ) 投票は無記名とし、各所属地区の評議委員数を連記します。
被選挙人名簿を見て、正しい氏名を記入して下さい。
(ロ) 投票用紙は本委員会所定のものを用い、かつ同封の封筒を用いて郵送して下さい。(内封筒は無記名、外封筒は住所氏名を記入して下さい。外封筒に住所・氏名のないものは無効とします)
他の用紙による投票は無効となります。

3. 当選人の決定

- (1) 地区別にその有効投票の最多数を得た者から順次当選とします。
 - (2) 同じ得票数の者が2人以上のときは、委員長が抽選で当選人を決定します。
 - (3) 当選人が決定したときは、委員会はその当選人にその旨を通知します。
4. その他疑義が生じた場合は、その都度選挙管理委員会において決定します。

II. 理事・監事の選挙

1. 選挙および被選挙人

- (1) 選出された評議委員の中から選挙により選出します。

2. 選挙の実施および方法

- (1) 選挙は、理事・監事の定数を所定の用紙に5地区以上の評議員の中から連記します。
- (2) 投票締切 平成13年12月7日(当日消印有効)
- (3) 開 票 平成13年12月15日

第14回日本助産学会 ワークショップ開催のお知らせ

日本助産学会学術振興担当理事 加藤 尚美

2003年に沖縄で開催予定の日本助産学会学術集會に先がって、会員の皆様の研究活動を支援するためのワークショップを以下のように企画しました。今回は臨床・地域の助産婦の活動現場での“助産ケアの質の向上を目指した研究のあり方”について検討してゆきたいと、講義および4領域のワークショップを準備いたしました。日頃、現場で感じているケア上の問題・課題を持ち寄って、共に研究の方向性を考えてみませんか? 多くの方々の参加をお待ちしています。

テーマ：ケア向上のための助産学研究

開催日時：平成13年11月11日(日) 午前10時～午後4時(受付9時30分)

開催場所：サザンプラザ海邦(沖縄県那覇市旭町7番地)

基調講演(午前)

基調講演Ⅰ：ヘルスケアの質とコスト及び看護研究

沖縄県立看護大学教授 Beverly Henry, PhD, DSc(hon)

基調講演Ⅱ：助産学研究の実際(交渉中)

ワークショップ(午後)

1. 助産学研究の基礎、研究過程
2. 妊婦を対象とした研究領域
3. 産婦・褥婦を対象とした研究領域
4. 新生児を対象とした研究領域

参加費：2,500円・講演のみ1,500円(会員・非会員ともに)、学生500円(午前のみ)

連絡・問い合わせ先：〒902-0076 沖縄県那覇市与儀1丁目24番1号

沖縄県立看護大学 母性保健看護・助産学研究室 園生 陽子

TEL：098-833-8848 FAX：098-833-5135



~~~~~  
 <ICM からののお知らせ・・・ 2001年3~4月号より 国際委員会  
 ~~~~~

The International Midwifery Network

国際助産学ネットワーク

イギリスを基盤としたナーシングタイムズ誌は、イギリス健康省の支援によって「国際助産学ネットワーク (IMN)」を開設しています。これは、世界中のよき実践家の経験を広め、マタニティ・ケアの改善を促すことを目的としています。

IMNは、ナーシングタイムズ誌の「よき実践のネットワーク (GPN)」の姉妹機構として、1999年に開始されました。両者は、実践家が最高のヘルスケアを共有し、普及させるのを手助けするためにつくられたものです。IMNの主な目的は、世界中の母親の安全を促進することです。

会員は実践を発展させることや仲間をサポートすることを願っており、会員資格は、あらゆる国の助産婦にあります。IMNは、会員達が情報を交換し、他の国の仲間との関係を築くことを促します。例えば、緊急に必要とする設備のために資金を集めることなどの実際的な支援は、助産婦とクライアントの生活を向上させることができます。時には、海外の知識のある仲間と、e-mail、手紙、ファックスを交換することで、士気を高めることができ、また地域における実践に改善への刺激を与えることにもなります。

ネットワークを通じて実践家は、文献検索では得られない情報を得ることができ、また他の人の実践経験から学ぶこともできます。

もし、あなたに関心があれば、データベースの管理者 (下記) とコンタクトをとって、あなたの関心のある領域が何であるかお知らせ下さい。そうすると管理者は、データベースを検索し、同じ関心事を共有するすべての実践家とコンタクトをとるための情報をあなたに送るでしょう。あなたが彼女らとコンタクトをとるのも、論文を読むように、彼女らがあなたに提供した情報を吟味するのも、あなた次第です。

利点は、

- ・ 電話、ファックス、e-mail や郵送などで契約できる、問い合わせサービス
- ・ 会員の活動やデータの更新を知らせる、年4回のニュースレター
- ・ 研修日のプログラムやネットワークイベント

IMNに加入するためには、Shirley Adams氏にお問い合わせ下さい。

tel : +44 20 7383 5865

fax : +44 20 7874 0512

e-mail : gpn@emap.com

お知らせ

続き

4. *事務局に下記の冊子 (86 ページ) が送られてきております。

FRONTIERS OF MIDWIFERY CARE:
 STDs/HIV/AIDS IN SAFE MOTHER HOOD
 Report of a collaborative
 ICM/MHO/UNICEF/UNFPA/UNAIDS
 Pre-Congress Workshop
 Manila, Philippines, 19-22 May 1999



第13会助産学会ワークショップの報告

日本助産学会学術振興担当理事 加藤 尚美

助産学会では、次期開催地において、研究活動を支援するという目的で、例年助産領域における研究のワークショップを開催している。2002年は東京での学会であり諸々の状況に鑑み、今年度は講演会を行った。日時は2000年11月13日(月)18:00~20:00、聖路加看護大学アリスC.セントジョン・メモリアルホールで開催した。テーマは「もっとうまく論文発表をするために知って得する講座—うまい研究発表のコツ・論文の書き方と学会発表—」である。愛知医科大学看護学部：植村研一教授にご講演を頂いた。また、「日本助産学会誌論文の動向と今後への期待」について、助産学会誌編集委員の野口真弓氏の報告もあった。出席者は会員45名、学生18名で、参加者からは国際的にも通用する論文の書き方、発表のしかたについて、先生のわかりやすい解説は、まさに「聞いて得した」という声をきくことができ一同大いに学ぶものがあった。なお、本講演会を開催するにあたって第16回助産学会長堀内成子教授はじめ聖路加看護大学の諸先生の協力を感謝します。(ご講演の概要は次回に掲載いたします。)

お知らせ

学術会議委員会 丸山 知子

1. 平成12年度評議員会にて学術会議委員会に対する質問の回答が一部保留されておりました。

第17期の看護学専門委員会が第18期より看護学研究連絡委員会として設置され、5名の委員で構成されています。しかし、これらに関する情報は十分ではありませんが、知れる範囲で報告します。

第17期第7部に専門委員会として設置されていた看護学専門委員会については、第18期ではこれを研究連絡委員会として設置する。設置に当たっては非推薦(課題別)研究連絡委員会の枠を使用することとし、委員は関係する研究連絡委員会からそれぞれ拠出することとする、ということが17期の第7部幹事会で骨子が決定され、18期で委員が選出されています。その選出方法等については明らかではありません。

その結果、下記の通り5看護学術団体より委員が選出されています。

※所属看護系学会・委員名(敬称略)及び委員定数に変更が生じる研究連絡委員会

- ①日本がん看護学会 小島 操 子：癌・老化研究連絡委員会(癌専門委員会定数)9→8
 - ②日本看護科学学会 山口 桂 子：精神医学研究連絡委員会8→7
 - ③千葉看護学会 舟島 なおみ：機能回復医学研究連絡会8→7
 - ④日本家族看護学会 杉下 知 子：地域医学研究連絡委員会9→8
 - ⑤日本看護研究学会 金川 克 子：医療薬学研究連絡委員会11→10
- 以上

2. *「こんにちわ!助産婦はいつも女性と共にいます」のパンフレット

平成11年度東京都女性財団の補助金を頂いて作成したパンフレットの在庫があります。一部13円です。是非ご利用ください。

3. *日本助産学会紹介用 英文パンフレット

白と紫系で色彩の美しい英文パンフレットができました。ご利用ください。

希望の方は助産学会事務局(TEL・FAX 03-3221-0417)まで

